

(小規模企業景気動向調査)

三重の景況

No.63

(平成 25 年 7 月～12 月期)

三重県商工会議所連合会
桑名商工会議所
四日市商工会議所
鈴鹿商工会議所
亀山商工会議所
津商工会議所
松阪商工会議所
伊勢商工会議所
鳥羽商工会議所
上野商工会議所
名張商工会議所
尾鷲商工会議所
熊野商工会議所

はじめに（総括）

三重県商工会議所連合会では、県下 12 商工会議所合同で、地域の小規模企業を対象とした景況調査を年 2 回実施しています。このたび平成 25 年下期の調査結果がまとまりましたのでご報告します。

三重県下の景況を示す指標である「現状」の D I 値は、 $\Delta 13.5$ と平成 25 年上期に比べ 13.4 ポイント改善しており、前期に引き続き今期も改善傾向となっております。

業種別の「現状」D I 値は、飲食業 $\Delta 32.0$ (前期 $\Delta 29.7$)が若干悪化していますが、建設業 11.5(前期 $\Delta 9.2$)、交通運輸業 6.4(前期 $\Delta 26.7$)、小売業 $\Delta 38.5$ (前期 $\Delta 42.8$)、卸売業 $\Delta 13.4$ (前期 $\Delta 27.8$)、製造業 $\Delta 6.3$ (前期 $\Delta 31.5$)、サービス業 $\Delta 26.5$ (前期 $\Delta 27.8$) が前期より改善となりました。特に交通運輸業が前期に比べて 33.1 ポイント、製造業が 25.2 ポイント、建設業が 20.7 ポイントの改善となりました。

地区別の D I 値では、北勢地区 $\Delta 10.9$ (前期 $\Delta 26.3$)、中勢地区 $\Delta 12.4$ (前期 $\Delta 27.2$)、南勢地区 $\Delta 8.1$ (前期 $\Delta 20.0$)、伊賀地区 $\Delta 15.8$ (前期 $\Delta 28.3$)、東紀州地区 $\Delta 39.0$ (前期 $\Delta 39.1$) となりました。

今後の見通しでは、D I 値は $\Delta 20.3$ (前回 $\Delta 23.5$) となり、3.2 ポイント改善となりました。地区別については北勢地区が 6.6 ポイント、伊賀地区が 8.3 ポイント改善しましたが、中勢地区が 0.3 ポイント、南勢地区が 2.8 ポイント、東紀州地区が 5.3 ポイント悪化の見通しとなり地域差が感じられます。業種別では、小売りと飲食を除く業種で改善となっています。

「売上状況」「売上の見通し」「利益状況」「販売条件」「仕入条件」のすべての項目について、前期よりも改善傾向となっています。

景気の方角性を示す項目である設備投資は、「予定している」とした割合は、全体で 14.0% (前期 9.7%) と 4.3% 増加しました。業種別では、交通運輸業が 31.9% と他の業種よりも多く設備投資を行う予定となっており、小売業が 7.3% と最も低い数値となりました。また、地区別では北勢地区が実績 17.4% と最も高く、予定では伊賀地区が 15.9% と最も高くなっています。

「借入の状況（難易度）」の D I 値は、全体で $\Delta 1.2$ (前期 $\Delta 1.3$) と 0.1 ポイント改善し、業種別では小売業、飲食業、サービス業、交通運輸業で、地区別では南勢地区と伊賀地区を除く地区で改善が見られました。

また、「借入を予定している」と回答した企業の割合は 15.7% (前期 16.3%) と 0.6% 減少し、「使途予定」については“運転資金”の割合は 66.6% (前期 73.5%) で“設備資金”の割合は 29.6% (前期 21.6%) となりました。

以上が本調査結果の概要です。本調査報告書が皆様の今後の企業経営の参考や小規模企業に対する皆様の更なる理解に資することになれば幸いに存じます。

最後に本調査の実施、作成にあたりましては、調査対象企業をはじめ関係各位の皆様にご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 2 月

三重県商工会議所連合会

も く じ

(調 査 内 容)

・ 調査要領	1
1. 現状と今後の見通し	4
現況D I 値の推移	6
2. 売上状況	8
3. 今後の売上見通し	8
4. 利益状況	9
5. 販売条件	9
6. 仕入条件	10
7. 設備投資	10
8. 資金繰り状況と今後の見通し	11
9. 借入状況	12
借入難易度D I 値の推移	13
10. 借入予定	14
11. 借入希望先	14
12. 借入金の使途予定	15
13. 経営上の問題点	15
・ 県下商工会議所地域における景況	17
・ 調査票（写し）	

「三重の景況」調査要領

1. 調査目的

当調査は、三重県商工会議所連合会と県下12商工会議所〔*1〕が、小規模企業〔*2〕の動向を合同で調査することにより、県内小規模企業の景況把握を、地区別〔*3〕に行い、合わせて各会議所地域ごとの景況を調査することにより、各商工会議所の事業活動の参考とすることを目的とする。

〔*1〕 県下商工会議所

桑名商工会議所	中小企業相談所
四日市商工会議所	中小企業相談所
鈴鹿商工会議所	中小企業相談所
亀山商工会議所	中小企業相談所
津商工会議所	中小企業相談所
松阪商工会議所	中小企業相談所
伊勢商工会議所	中小企業相談所
鳥羽商工会議所	中小企業相談所
上野商工会議所	中小企業相談所
名張商工会議所	中小企業相談所
尾鷲商工会議所	中小企業相談所
熊野商工会議所	中小企業相談所

〔*2〕 小規模企業（中小企業基本法による）

卸売・小売・サービス業は従業員5人以下、製造・建設・その他の業種については20人以下。（会社の役員・家族従業員・パートを除く）

〔*3〕 県内各地区は下記のとおり

北勢地区……桑名・四日市・鈴鹿・亀山
中勢地区……津・松阪
南勢地区……伊勢・鳥羽
伊賀地区……上野・名張
東紀州地区…尾鷲・熊野

2. 調査対象・回答状況

県下12会議所の会員企業中、任意抽出した小規模企業8,971社を対象とした。回答状況は、回答率25.6%、回答企業2,300社であった。

3. 調査方法

FAXまたは郵送方法によるアンケート方式

4. 調査期間

平成26年1月6日～1月17日

※当調査は、“1月～6月期”と“7月～12月期”の年2回、調査を実施している。

5. 集計方法

外部委託を行い、一括コンピュータ集計を行った。

6. 調査結果の取りまとめ

調査結果の取りまとめについては、津、松阪・上野・名張の4商工会議所が担当した。なお、各商工会議所地域の景況は当該商工会議所が担当した。

D I 値（ディフュージョン・インデックス）の見方について

D I とは景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及のない限り、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

（注）図表中の数値表示について

図表中の数値については小数点以下第2桁で四捨五入をしているため、合計が100.0にならない場合があります。

業種別・地区別回答状況

単位:企業 ():% 上:業種別構成率 下:地区別構成率

業種	地区	北勢				中勢			南勢			伊賀		東紀州			計			
		桑名	四日市	鈴鹿	亀山	津	松阪	伊勢	鳥羽	上野	名張	尾鷲	熊野							
														計						
製造業	食料	37	14	6	13	4	23	8	15	12	8	4	6	2	4	14	9	5	92	
	せんい	10	3	5	1	1	4	2	2	2	2	0	5	5	0	1	1	0	22	
	機械	65	40	8	14	3	16	4	12	16	7	9	10	5	5	0	0	0	107	
	金属製品	78	39	7	28	4	14	5	9	11	9	2	6	4	2	2	2	0	111	
	木材	17	7	3	1	6	19	1	18	4	3	1	2	1	1	6	5	1	48	
	化学	5	1	4	0	0	4	3	1	1	1	0	3	1	2	0	0	0	13	
	窯業	14	3	6	4	1	3	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	19	
	印刷出版	9	4	0	3	2	17	10	7	5	4	1	3	1	2	3	2	1	37	
	その他	61	25	15	19	2	18	9	9	17	15	2	7	1	6	4	4	0	107	
計	296 (27.6) (53.2)	136	54	83	23	118 (24.0) (21.2)	44	74	69 (20.9) (12.4)	50	19	42 (18.8) (7.6)	20	22	31 (18.6) (5.6)	23	8	556 (24.3) (100.0)		
非製造業	卸売業	食料	16	8	5	1	2	9	3	6	5	5	0	2	1	1	7	5	2	39
		せんい	1	1	0	0	0	5	1	4	4	4	0	1	0	1	1	0	1	12
		その他	52	21	18	10	3	19	10	9	9	6	3	10	3	7	1	1	0	91
		(小計)	69	30	23	11	5	33	14	19	18	15	3	13	4	9	9	6	3	142
	小売業	せんい	30	15	2	8	5	22	6	16	13	9	4	5	3	2	18	11	7	88
		食料	39	18	3	13	5	16	5	11	10	6	4	6	1	5	14	7	7	85
		日用品	9	6	1	2	0	4	1	3	2	2	0	1	1	0	2	1	1	18
		電気製品	21	8	1	9	3	8	2	6	6	6	0	6	2	4	7	4	3	48
		その他	75	35	8	21	11	43	9	34	31	18	13	18	6	12	17	12	5	184
	(小計)	174	82	15	53	24	93	23	70	62	41	21	36	13	23	58	35	23	423	
	サービス業	美容・理容	20	9	2	5	4	13	5	8	4	2	2	6	3	3	8	6	2	51
		ホテル旅館	2	0	1	1	0	4	1	3	12	2	10	1	0	1	4	1	3	23
		自動車整備	29	7	3	12	7	19	5	14	10	9	1	10	3	7	3	3	0	71
		不動産	30	15	12	1	2	13	6	7	8	8	0	6	0	6	1	1	0	58
		その他	72	28	12	25	7	30	19	11	32	27	5	18	6	12	4	1	3	156
		(小計)	153	59	30	44	20	79	36	43	66	48	18	41	12	29	20	12	8	359
	建設業	土木工事	62	14	11	32	5	14	6	8	10	5	5	12	2	10	5	4	1	103
		建築工事	104	37	22	36	9	39	22	17	37	30	7	26	15	11	9	8	1	215
		その他	104	30	30	40	4	52	29	23	20	17	3	24	6	18	8	6	2	208
		(小計)	270	81	63	108	18	105	57	48	67	52	15	62	23	39	22	18	4	526
	飲食業	48	22	7	16	3	22	3	19	26	12	14	13	6	7	16	11	5	125	
	交通運輸業	14	5	3	1	5	23	5	18	5	4	1	3	1	2	2	2	0	47	
	計	728 (67.9) (44.9)	279	141	233	75	355 (72.2) (21.9)	138	217	244 (73.9) (15.0)	172	72	168 (75.0) (10.4)	59	109	127 (76.0) (7.8)	84	43	1,622 (71.0) (100.0)	
その他	48 (4.5) (44.9)	16	10	15	7	19 (3.9) (17.8)	12	7	17 (5.2) (15.9)	16	1	14 (6.3) (13.1)	3	11	9 (5.4) (8.4)	6	3	107 (4.7) (100.2)		
合計	1,072 (100.0) (46.9)	431	205	331	105	492 (100.0) (21.5)	194	298	330 (100.0) (14.4)	238	92	224 (100.0) (9.8)	82	142	167 (100.0) (7.3)	113	54	2,285 (100.0) (100.0)		

1. 現状と今後の見通し

a) 現状 (図-1・2・3 参照)

全回答企業 2,300 事業所中、「良い・やや良い」が 24.6%、「変わらない」が 37.1%、「悪い・やや悪い」が 38.1%で、D I 値は△13.5 (前回△26.9) となり前回より 13.4 ポイント改善している。

業種別の D I 値では、小売業△38.5、飲食業△32.0、サービス業△26.5、その他△14.0、卸売業△13.4、製造業△6.3、交通運輸業 6.4、建設業 11.5 の順となっている。

地区別の D I 値では、北勢地区△10.9、中勢地区△12.4、南勢地区△8.1、伊賀地区△15.8、東紀州地区△39.0 であった。

図-1 現状について (業種別)

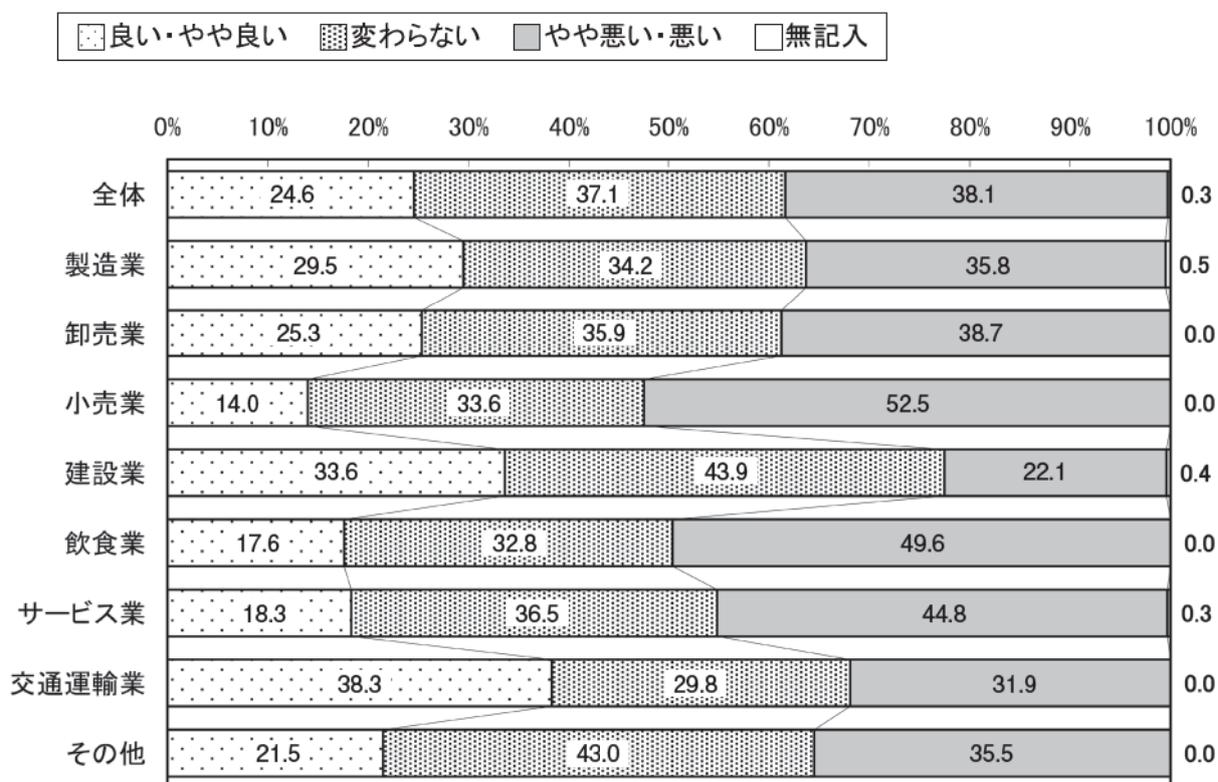
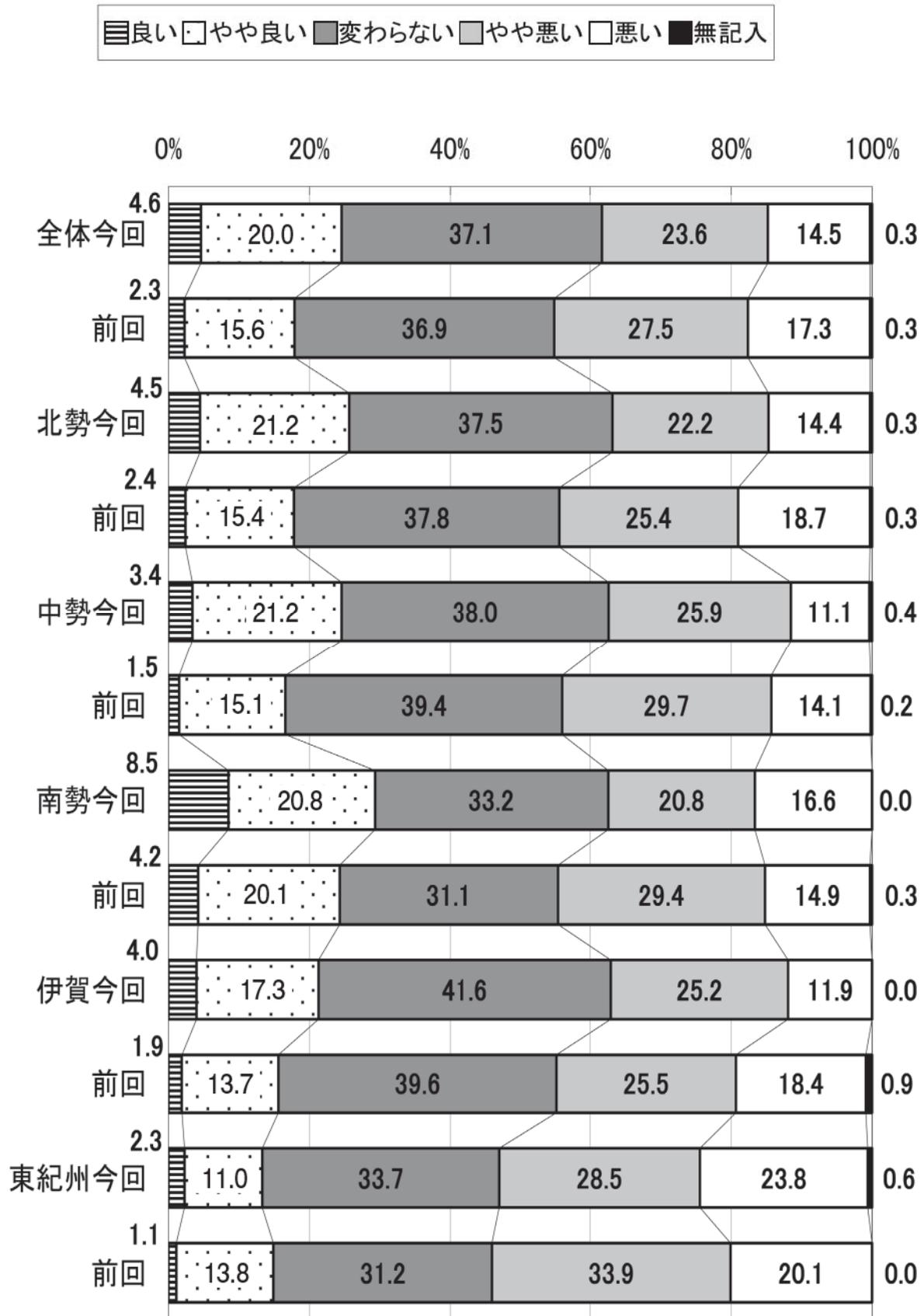


図-2 現状について（全体・地区別）



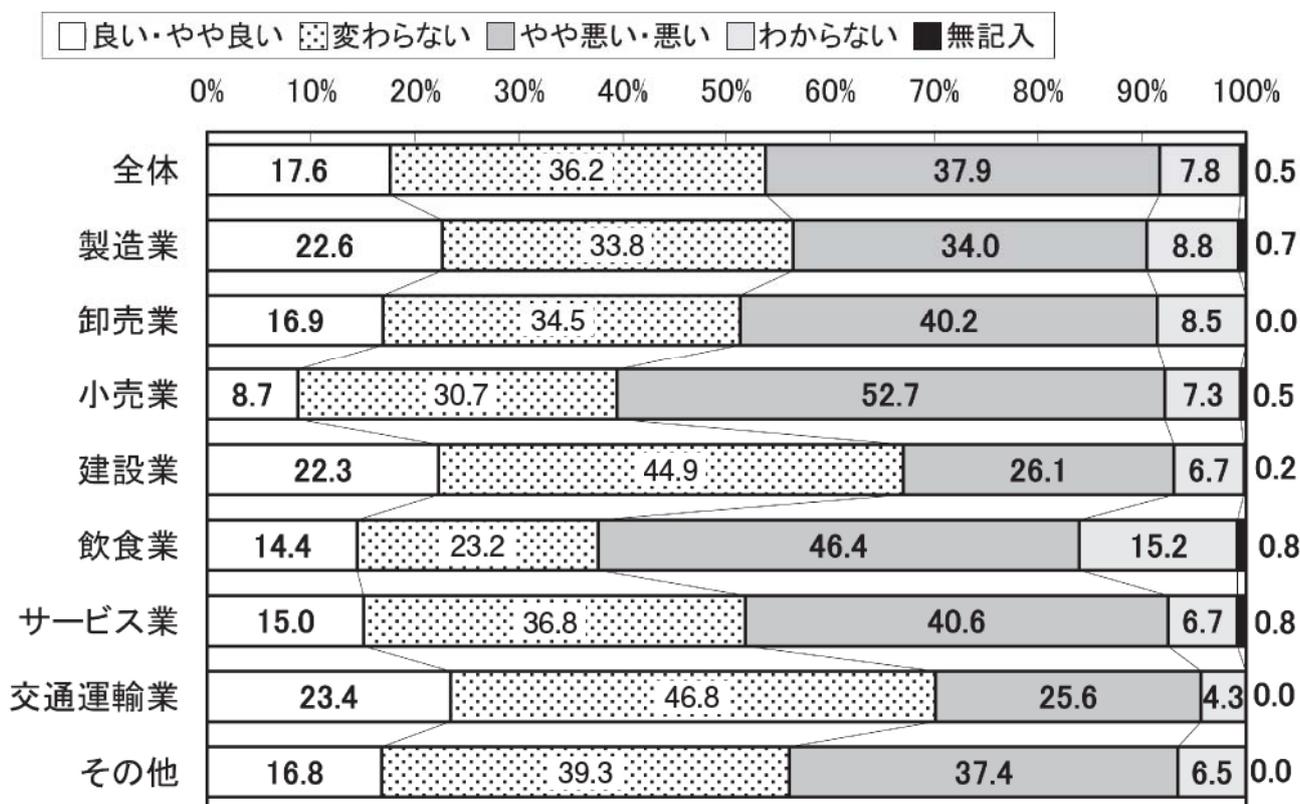
b) 見通し（図-4 参照）

全体の見通しでは、「良い・やや良い」が 17.6%に対し、「悪い・やや悪い」は 37.9%で、D I 値は $\Delta 20.3$ （前回 $\Delta 23.5$ ）となり、3.2ポイント改善となった。

業種別では、D I 値で小売業 $\Delta 44.0$ 、飲食業 $\Delta 32.0$ 、サービス業 $\Delta 25.6$ 、卸売業 $\Delta 23.3$ 、その他の業種 $\Delta 20.6$ 、製造業 $\Delta 11.4$ 、建設業 $\Delta 3.8$ 、交通運輸業 $\Delta 2.2$ の順であった。

地区別のD I 値では、北勢地区 $\Delta 16.8$ 、中勢地区 $\Delta 19.2$ 、南勢地区 $\Delta 20.6$ 、伊賀地区 $\Delta 18.1$ 、東紀州地区 $\Delta 47.1$ であった。

図-4 今後の見通しについて（業種別）

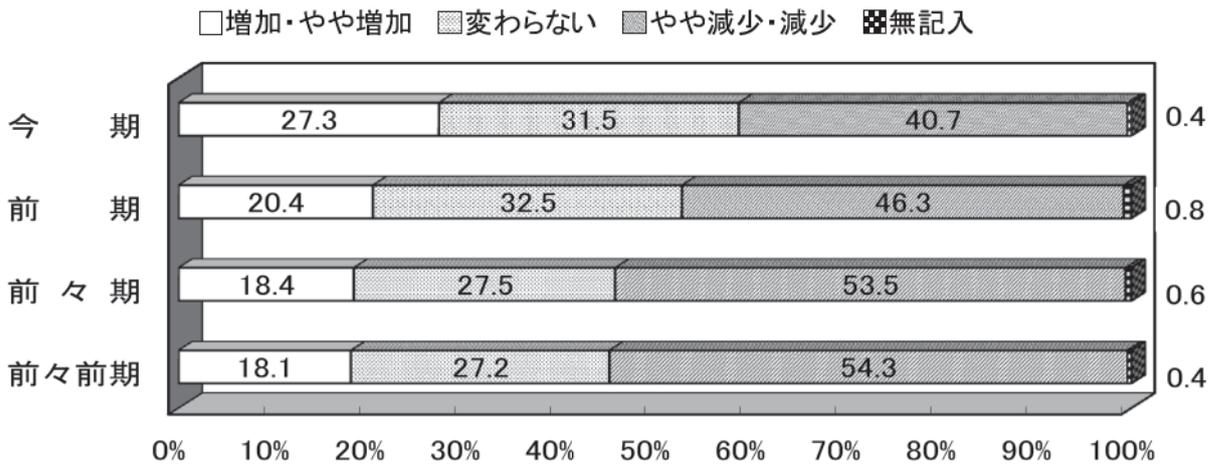


2. 最近の売上状況（図－5 参照）

全体では、「増加・やや増加」が 27.3%（前回 20.4%）、「やや減少・減少」が 40.7%（前回 46.3%）で、D I 値は△13.4（前回△25.9）となり、12.5 ポイント改善した。

業種別では、サービス業（2.9 ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種で改善されており、特に交通運輸業では、10.6（前回△13.4）と 24.0 ポイント改善している。地区別では、東紀州地区以外の地区で改善となった。特に北勢地区△10.8（前回△26.0）と 15.2 ポイントの改善となった。

図－5 売上状況

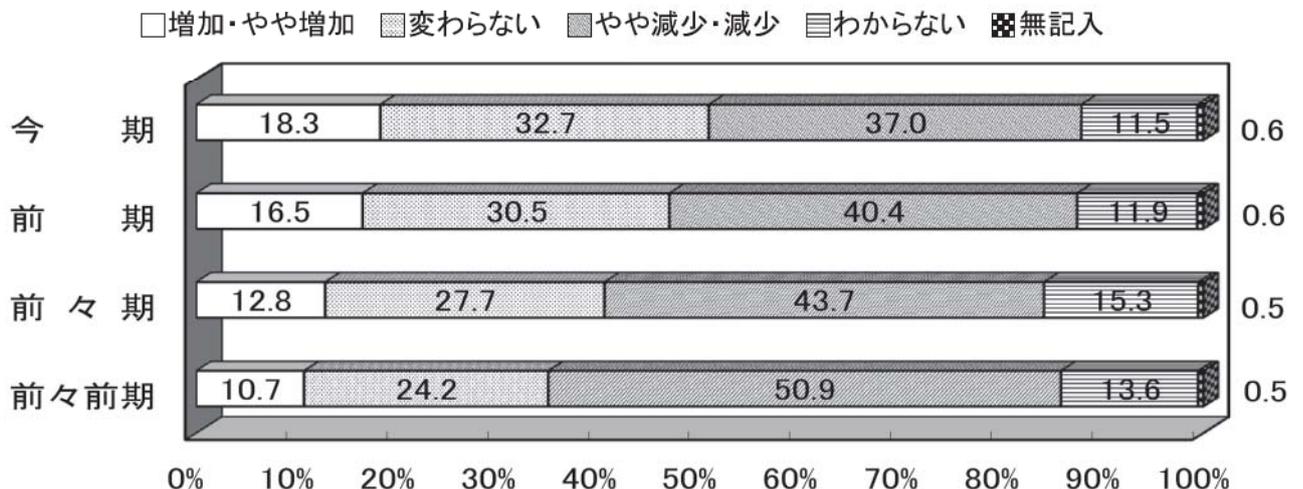


3. 今後の売上見通し（図－6 参照）

全体では、「増加・やや増加」が 18.3%（前回 16.5%）、「やや減少・減少」が 37.0%（前回 40.4%）で、D I 値は△18.7（前回△23.9）となり、5.2 ポイント改善の見通しとなった。

業種別では、卸売業（2.6 ポイント）、小売業（2.1 ポイント）、飲食業（9.7 ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特にその他の業種では、△9.4（前回△22.2）と 12.8 ポイント改善している。地区別では、南勢地区と東紀州地区以外の地区で改善となった。特に伊賀地区で△21.3（前回△33.6）と 12.3 ポイントの改善となった。

図－6 売上見通し



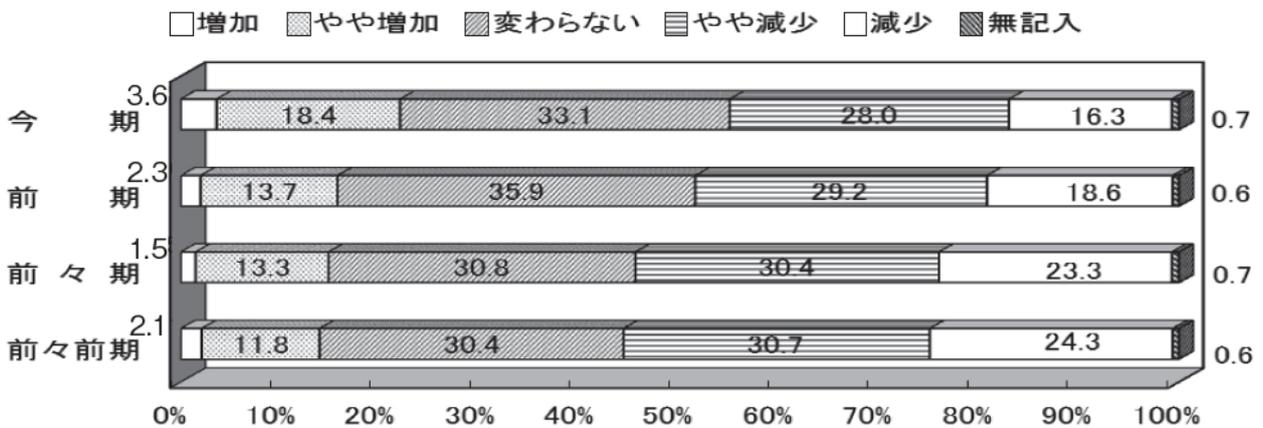
4. 利益状況（図－7 参照）

全体では、「増加・やや増加」22.0%（前回15.7%）、「やや減少・減少」が44.3%（前回47.8%）で、D I 値は△22.3（前回△32.1）となり、9.8ポイントの改善となった。

業種別では、飲食業（11.3ポイント）、その他の業種（6.1ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特に製造業では、△14.1（前回△35.9）と21.8ポイント改善している。

地区別では、東紀州地区以外の地区で改善となった。特に北勢地区では△19.4（前回△32.0）と12.6ポイント改善している。

図－7 利益状況



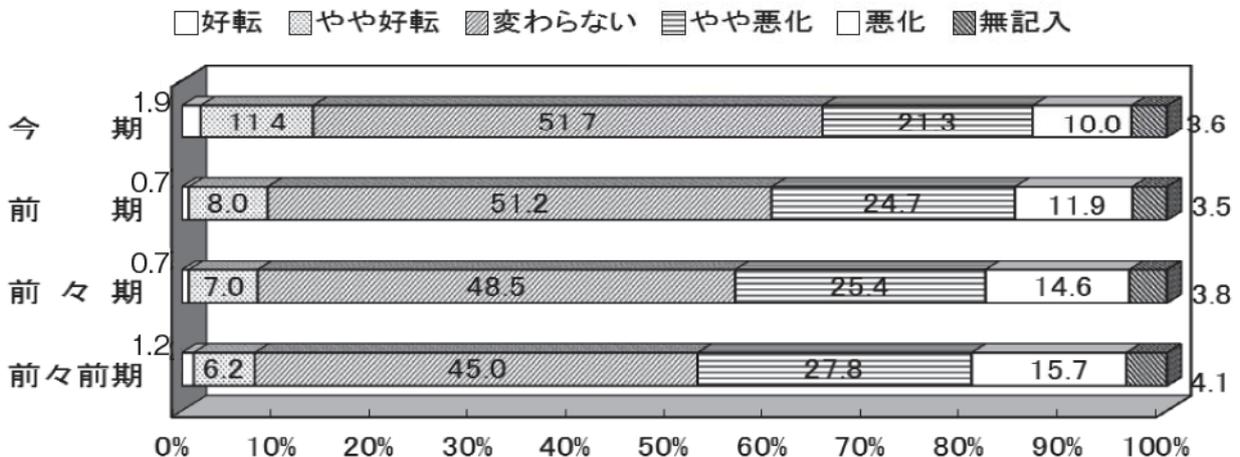
5. 販売条件（図－8 参照）

全体では、「好転」、「やや好転」が13.3%（前回8.7%）、「やや悪化」、「悪化」は31.3%（前回36.6%）で、D I 値は△18.0（前回△27.9）となり、9.9ポイントの改善となった。

業種別では、飲食業（4.3ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特に製造業では、△8.7（前回△26.0）と17.3ポイントの改善が見られる。

地区別では、東紀州地区以外の地区で改善となった。特に伊賀地区では、△13.3（前回△27.9）と14.6ポイントの改善が見られる。

図－8 販売条件



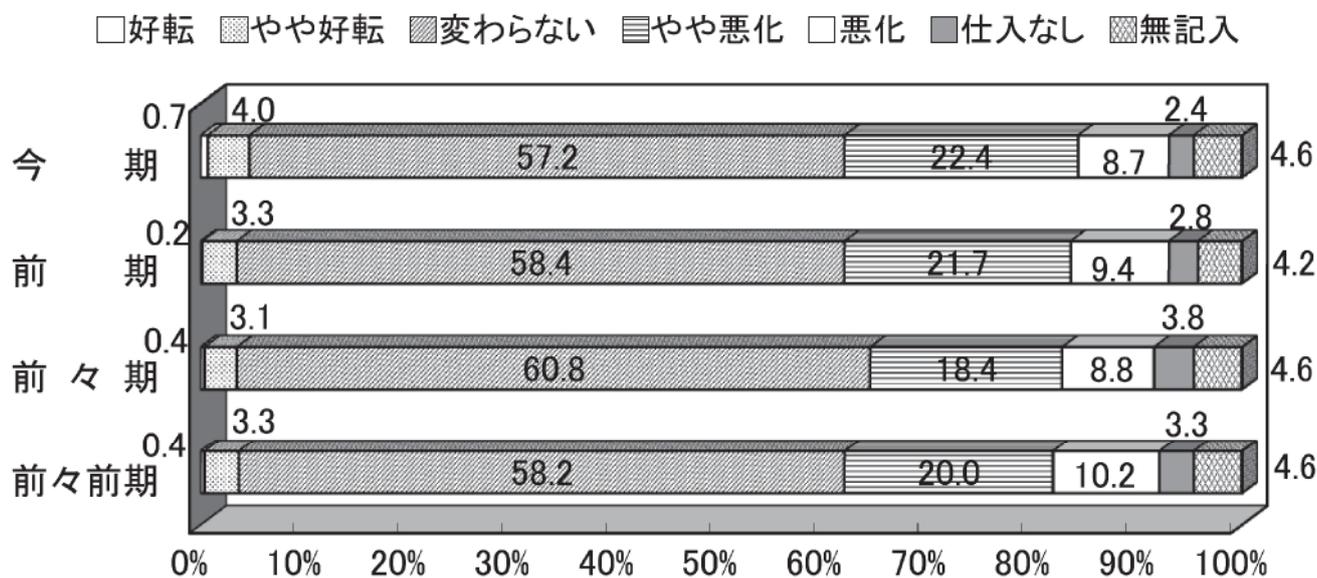
6. 仕入条件（図－9 参照）

全体では「好転」、「やや好転」が 4.7%（前回 3.5%）、「やや悪化」、「悪化」は 31.1%（前回 31.1%）で、D I 値は△26.4%（前回△27.6%）となり、1.2 ポイントの改善となった。

業種別では、卸売業（0.5 ポイント）、小売業（2.5 ポイント）、飲食業（12.3 ポイント）、サービス業（2.0 ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特に交通運輸業では、△29.8（前回△35.6）と 5.8 ポイントの改善が見られる。

地区別では、北勢地区（3.8 ポイント）、南勢地区（0.4 ポイント）で改善しているが、それ以外で悪化が見られ、特に東紀州地区では△3.3 ポイント悪化した。

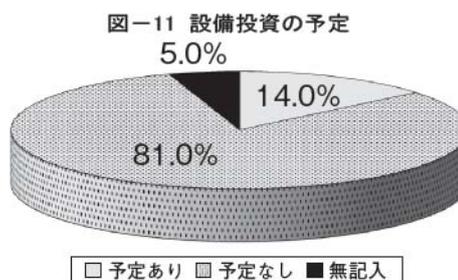
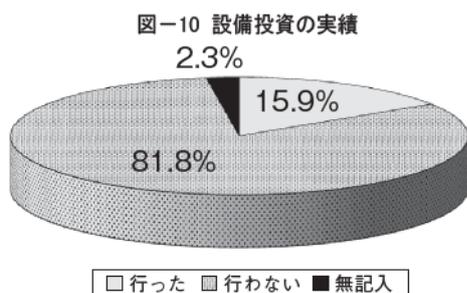
図－9 仕入条件



7. 設備投資（図－10・11 参照）

全体では、設備投資を行った企業は 366 社、15.9%（前回 13.4%）、設備投資を予定している企業は 321 社、14.0%（前回 9.7%）と増加した。

業種別の投資実績では、飲食業が 22.4%と最も高く、小売業が 9.5%と最も低い数値であった。また、地区別では北勢地区が実績 17.4%と最も高く、南勢地区が 13.3%と最も低い数値であった。予定では伊賀地区が 15.9%と最も高く、東紀州地区が 8.7%と最も低い数値であった。



8. 資金繰り状況と今後の見通し

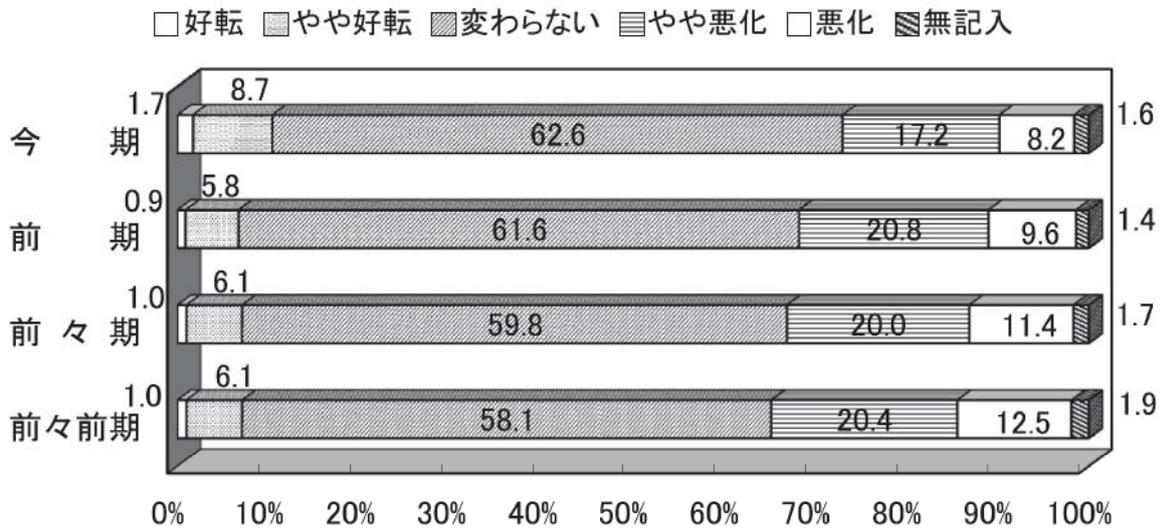
a) 現状 (図-12参照)

全体では「好転・やや好転」が10.4% (前回6.7%) に対し「悪化・やや悪化」は25.4% (前回30.4%) で、D I値は△15.0 (前回△23.7) となり8.7ポイント改善した。

業種別D I値では、全業種で改善が見られた。特にその他の業種では、△12.2 (前回△25.2) で13.0ポイント改善した。

地区別D I値では、東紀州地区以外は全地区で改善した。

図-12 資金繰りの現状

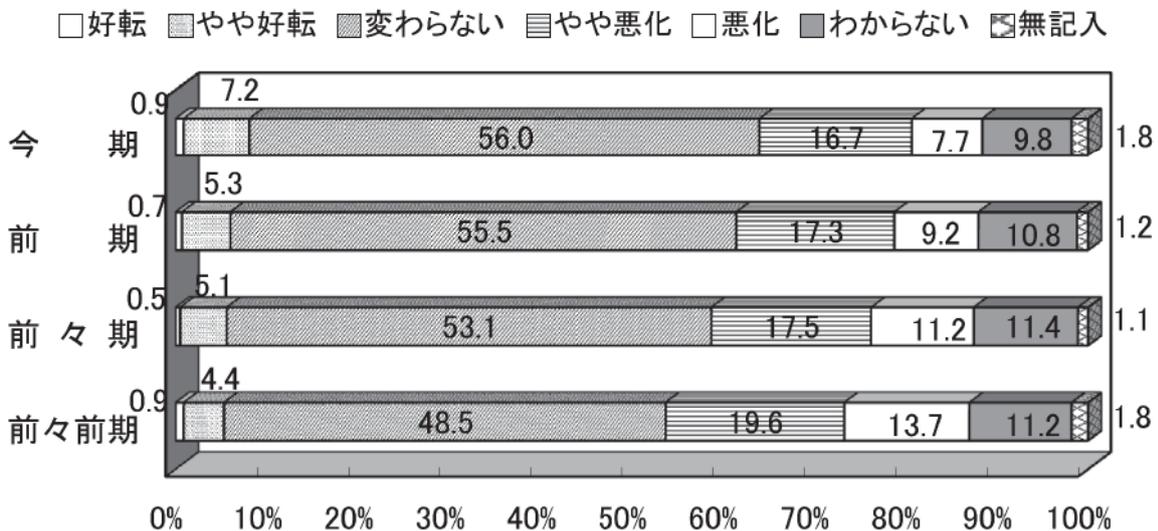


b) 見通し (図-13参照)

全体では、「好転・やや好転」が8.1% (前回6.0%) に対し、「悪化・やや悪化」は24.4% (前回26.5%) で、D I値は△16.3 (前回△20.5) となり4.2ポイント改善した。

業種別D I値では、全業種で改善した。特に卸売業が△11.2 (前回△18.5) で7.3ポイント改善した。また、地区別D I値では東紀州地区以外の全地区で改善した。

図-13 資金繰りの見通し



9. 借入状況

a) 現状

回答企業2,300社のうち、借入を実施した企業は、984社、42.7%（前回944社、39.2%）であった。

b) 借入の難易度（図-14・15参照）

全体では、借入を実施した企業のうち、「容易」が13.8%（前回13.5%）、「困難」は15.0%（前回14.8%）で、DI値は△1.2（前回△1.3）となり、0.1ポイント改善した。

業種別DI値では、製造業、建設業、卸売業、その他の業種以外の業種で改善した。また、地区別DI値では南勢地区、伊賀地区以外の地区で改善した。

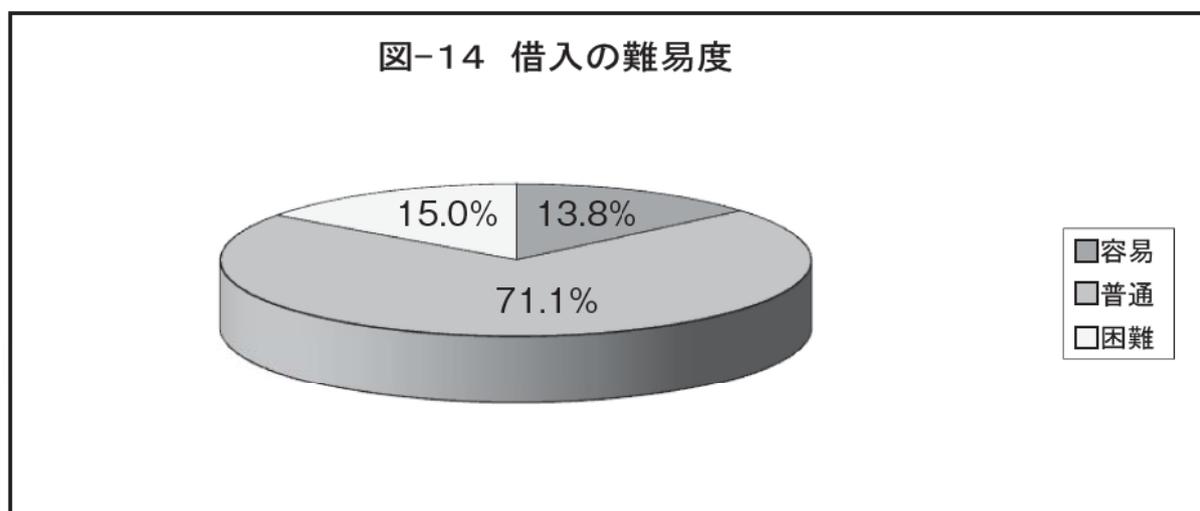
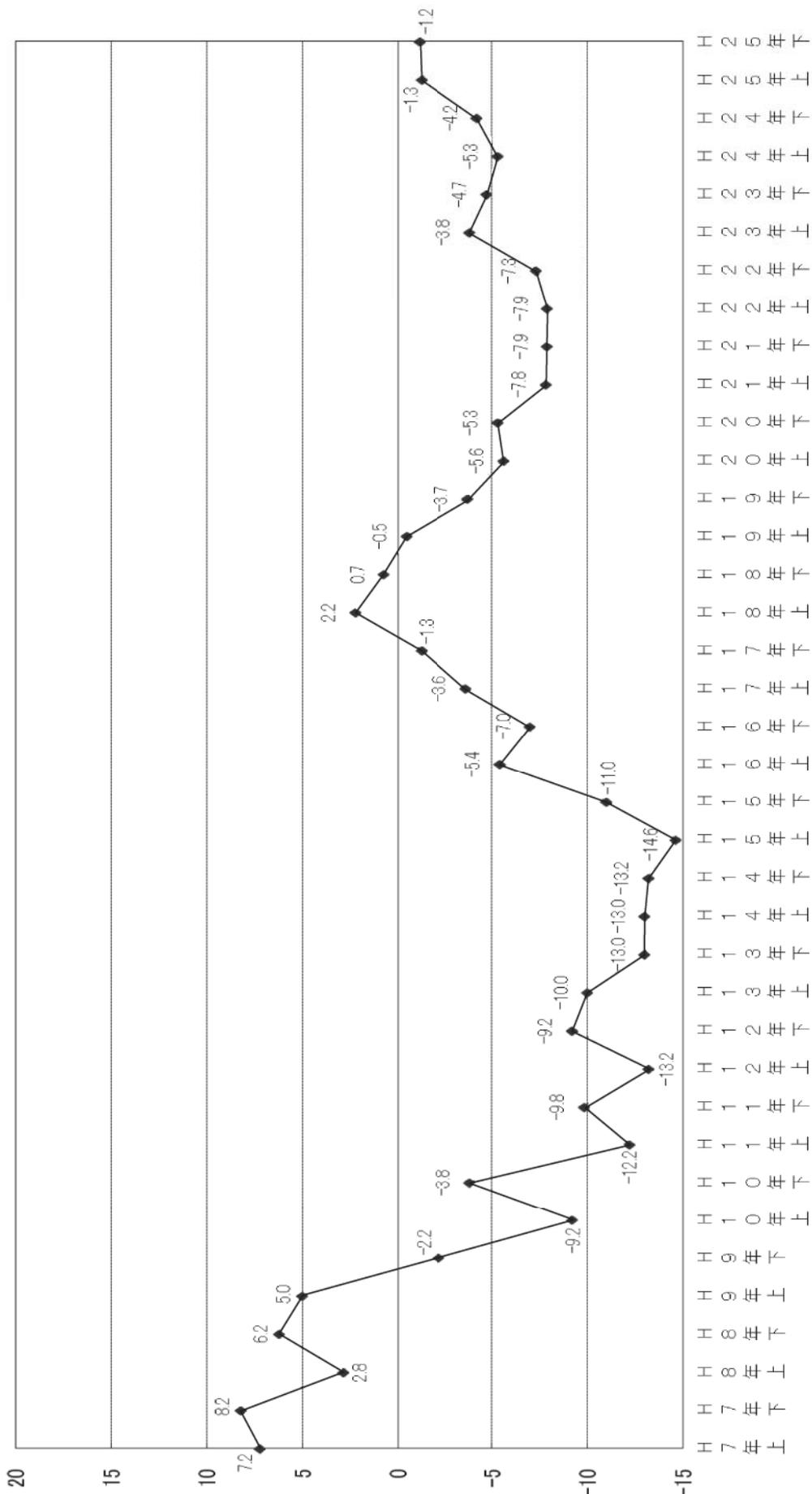


図-15 借入難易度DI値の推移

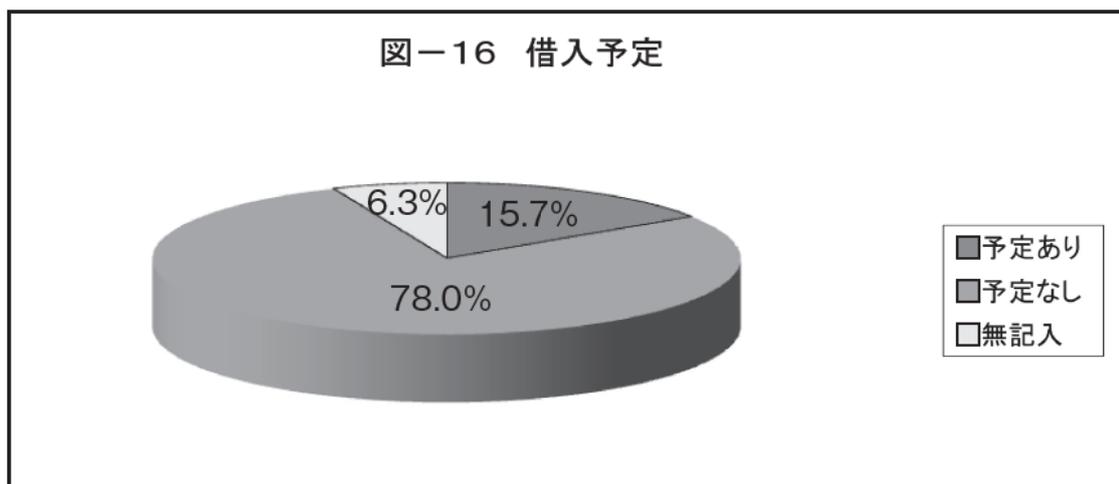


注) H17下期分までの値はBSI値を2倍した数値で表示

10. 借入予定（図－16参照）

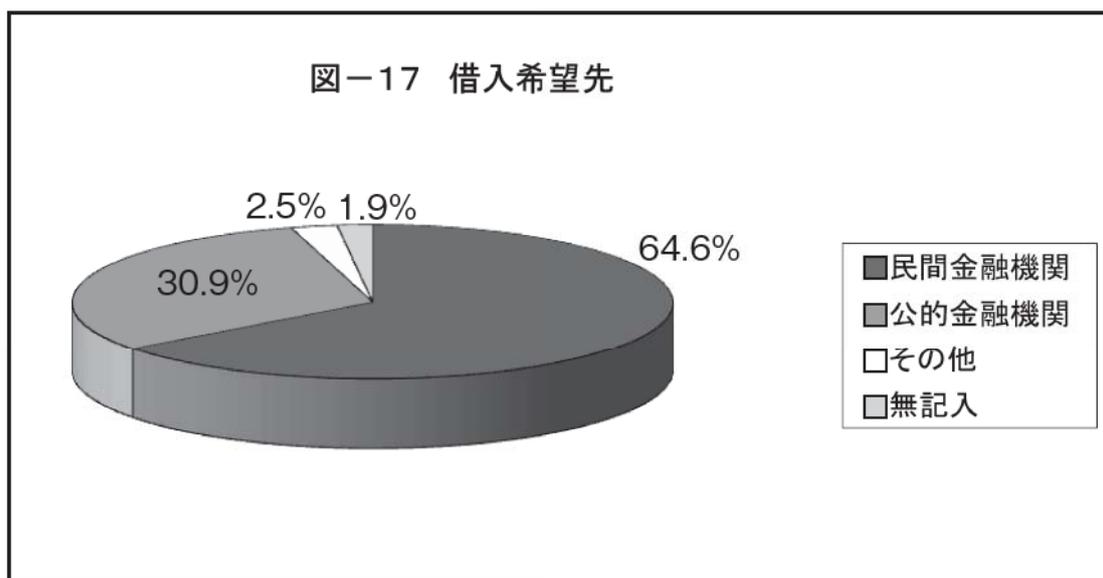
全体では、回答企業2,300社中、借入を予定している企業は362社、15.7%（前回16.3%）であった。

業種別で借入を予定しているのは、交通運輸業で29.8%と最も高く、飲食業で8.0%と最も低かった。また地区別では、伊賀地区が23.0%と最も高く、南勢地区が12.4%と最も低かった。



11. 借入希望先（図－17参照）

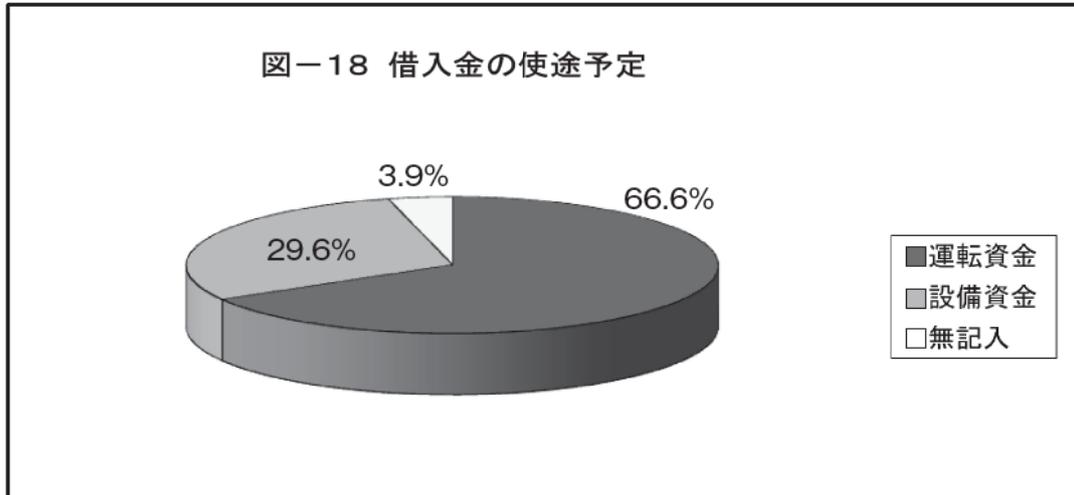
借入を予定している企業のうち、「民間金融機関」が64.6%（前回60.1%）に対し、「公的金融機関」は30.9%（前回32.8%）で、民間金融機関での借入希望が増加した。



12. 借入金の使途予定（図－18参照）

全体では、借入を予定している企業のうち、「運転資金」が 66.6%（前回 73.5%）に対し、「設備資金」は 29.6%（前回 21.6%）であった。

業種別では、「運転資金」で建設業が 81.3%、「設備資金」で交通運輸業が 57.1%とそれぞれ最も高かった。



13. 経営上の問題点（表－1参照）

全体では、「売上・受注の停滞減少」46.4%（前回 51.5%）、「競争激化」27.7%（前回 31.0%）、「人材育成」19.5%（前回 15.5%）の順となった。

業種別では、「売上・受注の停滞減少」の回答が最も多く、飲食業では「原材料高及び不足」、交通運輸業では「人件費以外の経費増加」であった。業種別での2位の回答は、「競争激化」が最も多く、製造業では「原材料高及び不足」、建設業では「人手不足」、飲食業と交通運輸業では「売上・受注の停滞減少」であった。

表－1 経営上の問題点(3項目以内複数回答)

区分		第1位	第2位	第3位
業種別	製造業	売上・受注の停滞減少 44.4%	原材料高及び不足 27.7%	人材育成 24.1%
	建設業	売上・受注の停滞減少 35.7%	人手不足 35.2%	競争激化 30.2%
	卸売業	売上・受注の停滞減少 59.9%	競争激化 36.6%	原材料高及び不足 19.7%
	小売業	売上・受注の停滞減少 65.0%	競争激化 38.5%	製品・商品単価の下落 17.0%
	飲食業	原材料高及び不足 43.2%	売上・受注の停滞減少 41.6%	設備店舗の狭小老朽化 29.6%
	サービス業	売上・受注の停滞減少 44.3%	競争激化 31.5%	設備店舗の狭小老朽化 25.6%
	交通運輸業	人件費以外の経費増加 36.2%	売上・受注の停滞減少 原材料高及び不足 25.5%	人手不足 設備店舗の狭小老朽化 19.1%
	その他	売上・受注の停滞減少 37.4%	競争激化 27.1%	人材育成 24.3%
地区別	北勢	売上・受注の停滞減少 44.4%	競争激化 27.5%	人材育成 23.2%
	中勢	売上・受注の停滞減少 50.3%	競争激化 32.9%	人材育成 19.6%
	南勢	売上・受注の停滞減少 46.5%	競争激化 22.7%	設備店舗の狭小老朽化 原材料高及び不足 19.9%
	伊賀	売上・受注の停滞減少 42.5%	競争激化 28.8%	原材料高及び不足 23.0%
	東紀州	売上・受注の停滞減少 52.3%	競争激化 22.1%	原材料高及び不足 19.8%
総合	売上・受注の停滞減少 46.4%	競争激化 27.7%	人材育成 19.5%	

県下商工会議所地域の景況

○桑名商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」との回答が 21.8%、「変わらない」が 39.6%、「やや悪い・悪い」が 38.4%、D I 値は△16.6（前回△31.3）で、前回調査と比べて 14.7 ポイントとマイナス幅が縮小し、景気改善の力強さは増してきている。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 18.0%、「変わらない」が 32.9%、「やや悪い・悪い」との回答は 35.4%、D I 値は△17.4（前回△26.1）となり、現状の D I 値と比べて景況はほとんど変わらないという見通しである。

目立った変化等

前回調査時と比較して全業種が改善傾向にある。特に製造業は△19.8 ポイント（前回△44.9 ポイント）交通運輸業は△20.0 ポイント（前回△80.0 ポイント）とマイナスで推移しているものの、大幅な改善がみられる。

経営上の課題としては「設備店舗の狭小老朽化」が上位にあがっており、設備投資等へ資金を流用できるかどうかは今後の景気動向を左右するといえる。

また、人材の育成や人手不足など雇用面で課題を抱えている経営者も多い。

○四日市商工会議所地域

現 状

「良い、やや良い」が 30.8%（前回は 19.2%）「変わらない」が 34.6%（前回は 40.1%）「やや悪い、悪い」が 34.6%（前回は 40.7%）との結果となった。現状 D I 値は△3.8 であり、前回の△21.5 から大幅に上昇（17.7 ポイント）した。さらに平成 24 年度下期の調査と比較すると、D I 値は 32.1 ポイントと大幅に上昇しており、景況感はこの 1 年で大きく改善した。

D I 値の変化を業種別にみると、製造業で 35.5 ポイント、建設業で 27 ポイントと大きく上昇し、両業種ともプラスに転じた。逆に、小売業では 5.3 ポイント低下、サービス業で 27.4 ポイント低下しており、業種間で景況感に対する格差が広がっている。

見 通 し

「良い・やや良い」が 21.7%「変わらない」が 38.9%、「やや悪い・悪い」が 29.8%となり、見通し DI 値は△8.1（前回は△14.9）と前回よりも 6.8 ポイント上昇した。

業種別に前回見通し値と比較すると、建設業において 11.2 ポイント上昇してプラスに転じ、サービス業においては 7.2 ポイント上昇しているが、その他の業種では低下している。

目立った変化等

建設業は現状DI値、見通しDI値が大幅に上昇してプラスに転じているだけでなく、売上状況DI値4.7（前回より11.5ポイント上昇）、販売条件DI値14.3（前回より33.4ポイント上昇）と大幅に上昇してプラスに転じ、景況感は大きく改善している。

これらの改善の要因については、自由記述欄に「公共工事の増加」「消費税増額前の駆け込み需要による注文増」などの回答が見られた。

対して、現状に関するDI値が低下しているサービス業については、「お客様の高齢化」「競合店の増加」などの回答が見られた。

経営上の問題点については、全体で前回に引き続き「売上・受注の停滞減少」（48.6%）、「競争激化」（30.3%）、「人材育成」（28.8%）の順で上位を占めた。また、今回の調査では「人手不足」の回答が前回値より大幅に上昇して19.2%となった。

「人材育成」が問題となっていると答えた40社のうち、26社（65%）が建設業および製造業であった。また、「人手不足」が問題となっていると答えた60社のうち、39社（65%）が建設業および製造業であったことから、建設業や製造業においては受注が活発化して景況感は良くなっているが、現状ではそれを支える人手が不足しており、人材確保の問題が浮き彫りとなった。

○鈴鹿商工会議所地区

現 状

対象1,020社 回答331社 回答率32.5%。「良い・やや良い」と答えた企業が28.1%（前回17.8%：前年同期18.8%）、「やや悪い・悪い」と答えた企業は33.8%（前回46.1%：前年同期50.4%）となった。また、DI値が△5.7（前回△28.3：前年同期△31.6）と前年同期より25.9ポイント、前回より22.6ポイント改善している。現状について、前年同期に比べすべての業種でかなり改善している。業種別では、製造業DI値15.6（前回△21.1：前年同期△31.2）、建設業DI値10.3（前回△13.7：前年同期△13.3）、卸業DI値△18.2（前回△71.5：前年同期△30.0）、小売業DI値△45.3（前回△54.4：前年同期△52.0）、飲食業DI値△43.7（前回△37.6：前年同期△63.2）、サービス業DI値△25.0（前回△37.3：前年同期△38.5）となった。

見 通 し

「良い・やや良い」と答えた企業が19.0%（前回15.7%：前年同期12.9%）、「やや悪い・悪い」と答えた企業は39.0%（前回44.7%：前年同期42.2%）となった。また、DI値が△20.0（前回29.0：前年同期△29.3）と前年同期より9.3ポイント、前回より9.0ポイント改善している。

今後の見通しについて、前年同期に比べすべての業種で改善傾向にある。業種別では、製造業DI値△3.6（前回△17.2：前年同期△27.7）、建設業DI値△7.4（前回△26.5：前年同期△20.9）、卸業DI値△36.4（前回△42.9：前年同期△50.0）、小売業DI値△52.9（前回

△45.6：前年同期△42.0)、飲食業 DI 値△43.8 (前回△43.8：前年同期△52.7)、サービス業 DI 値△36.3 (前回△32.6：前年同期△33.2) となった。

売 上

「増加・やや増加」と答えた企業が 30.5% (前回 18.5%：前年同期 23.7%)、「やや減少・減少」と答えた企業は 38.4% (前回 49.0%：前年同期 44.6%) となった。また、DI 値が△7.9 (前回△30.5：前年同期△20.9) と前年同期より 13.0 ポイント、前回より 22.6 ポイント改善している。

利 益

「増加・やや増加」と答えた企業が 26.9% (前回 15.4%：前年同期 19.6%)、「やや減少・減少」と答えた企業は 39.3% (前回 48.6%：前年同期 47.0%) となった。また、DI 値が△12.4 (前回△33.2：前年同期△27.4) と前年同期より 15.0 ポイント、前回より 20.8 ポイント改善している。

目立った変化等

現状・見通し・売上・利益のすべてにおいて前回調査の DI 値よりかなり回復している。業種別では、建設業・製造業で大幅に回復しており、他の業種を牽引しているが、小売業・飲食業・サービス業では、以前厳しい状況が続いている。

建設業においては、一昨年の台風 17 号の被害を受け、鈴鹿市が行っている治水工事の公共事業が今年度までずれ込んできており、さらに年度末に向けた公共事業の発注と重なり、土木関係に携わる企業を中心に好調である。ただ、一過性のもので終わる可能性があり、今後も安定的に受注があるかという不安を拭うことができない。また、製造業においては、ホンダの軽自動車の販売が好調に加え、新型車の投入も控えており、自動車関連企業が活気を取り戻しつつある。

一方、飲食業においては、大手 FC チェーンに顧客が流れ、苦境に立たされる事業者が散見されるため改善があまり見られない。その他のサービス業においても、同様に厳しい状況下にあり、4 月の消費税増税の影響によって消費マインドの後退などの悪影響が出るのではないかという懸念もある。

○亀山商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が 23.8% (前年同期 16.1%)、「やや悪い・悪い」が 41.9% (前年同期 51.6%) となり、DI 値は△18.1 で、前年同期値△35.5 より 17.4 ポイント大幅に改善しており、前期(△17.3)と比べて 0.8 ポイント悪化しているという結果となった。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が 19.0% (前年同期 15.0%)、「やや悪い・悪い」が 40.9% (前年同期 44.1%) となり、DI 値は△21.9 で、前年同期△29.1 より 7.2 ポイント改善しており、前期(△24.4)と比べても、2.5 ポイント改善している。業種別で見ると、前期と比べ

製造業と建設業に改善の傾向が見られる。

目立った変化等

今回の調査にて、全体として前年同期より状況が改善していることが把握できる。特に売上状況については、「増加・やや増加」と答えた割合が前年同期比より7.3%増加し、「減少・やや減少」と答えた割合が14.1%減少していることから大きく改善していることが分かる。

しかしながら、利益状況については、「増加・やや増加」と答えた割合が前年同期比より2.3%減少しており、「変わらない」と答えた割合が5.3%増加している。さらに仕入条件については「悪化・やや悪化」と答えた割合が9.8%増加しており、これらを踏まえると、売上関連については改善してきたものの、仕入関連が悪化し、利益を圧迫していると考えられる。仕入関連については一概に原因を特定することはできない。さらには仕入条件の悪化に伴い、資金繰りの現状について「悪化・やや悪化」と答える割合も微増しており、景気の改善が見られるものの、事業経営の厳しさは依然として変わらないことが分かる。

これらの点が短期的に改善されることは難しいため、小規模企業の景気動向の改善の足枷となることが懸念される。さらに、今回の調査において、経営上の問題として新たに「税務・経理問題」をあげる事業所が増えてきていることから、消費税率の段階的引上げ等の税制面について懸念している事業所が増えていることが考えられる。

○津商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が25.1%（前回20.9%：前年同期17.6%）、「やや悪い・悪い」が37.4%（前回36.5%：前年同期49.6%）、DI値が△12.3（前回△15.6：前年同期△32.0）と前年同期より3.3ポイントマイナス幅が増加する結果となった。

業種別ではサービス業と交通運輸業で悪化傾向が見られたが、製造業、建設業、卸売業、小売業で改善が見られた。中でも製造業は前回DI値の△32.4から今回DI値の△13.7へ改善が見られた。

見 通 し

「良い・やや良い」が15.9%（前回21.3%：前年同期16.2%）、「やや悪い・悪い」が38.5%（前回31.8%：前年同期39.7%）、DI値は△22.6（前回△10.5：前年同期△23.5）と前回より12.1ポイントマイナス幅が増加する見通しとなっている。業種別では卸売業で改善の数値のほか、製造業、建設業、小売業、飲食業、交通運輸業で悪化見込みの数値を示している。

目立った変化等

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く51.8%となった。次いで「競争激化」37.4%、「人材育成」20.0%となった。前回と比較すると3位の順位が変化しており、「製品・商品単価の下落」から「人材育成」へと移行した。「人手不足」は今回17.4%と前回14.6%と比較すると2.8ポイント上昇しており、「人材育成」の3位上昇と併せて、

人材面での課題が表面化していることが伺える。

業種別に見ると、建設業以外は「売上・受注の停滞減少」を最も困っている問題として捉えているが、建設業では「競争激化」が 42.1%、「売上・受注の停滞減少」が 38.6%と逆転する結果となった。

○松阪商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 24.3%（前回 14.1%）、「やや悪い・悪い」が 36.7%（前回 48.1%）となり、DI 値は $\Delta 12.4$ （前回 $\Delta 34.0$ ）で前回に比べ 21.6 ポイント改善している。業種別では全業種が改善した。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 16.0%（前回 12.5%）、「やや悪い・悪い」が 33.0%（前回 36.5%）となり、DI 値は $\Delta 17.0$ （前回 $\Delta 24.0$ ）で前回に比べ 7.0 ポイント改善の見通しとなっている。業種別では飲食業、サービス業を除く全ての業種で改善の見通しとなっている。

目立った変化等

経営上困っている問題点として、前回に引続き「売上・受注の停滞減少」が 49.3%で最も多く、2位は「競争激化」30.0%、3位は「原材料高及び不足」21.0%という結果となった。

○伊勢商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 29.0%（前回 21.9%）、「やや悪い・悪い」が 36.1%（前回 40.8%）、DI 値 $\Delta 7.1$ （前回 $\Delta 18.9$ ）と前回に比べ 11.8 ポイント改善している。

業種別では、飲食業、小売業を除き、改善が見られ、中でも製造業は前回に比べ 35.3 ポイントと大きく改善している。また、交通運輸業が 25.0 ポイント、建設業が 21.2 ポイント改善している。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 24.0%（前回 21.1%）、「やや悪い・悪い」が 38.6%（前回 39.4%）、DI 値 $\Delta 14.6$ （前回 $\Delta 18.3$ ）と前回より 3.7 ポイントやや好転している。

業種別では、交通運輸業、飲食業、小売業、建設業で悪化の見通しであるが、製造業、サービス業では改善の見通しとなっている。中でも製造業は前回に比べ 29.3 ポイントと大きく改善している。

目立った変化等

経営上の問題点として、全体では前回に引き続き、「売上・受注の停滞減少」が 45.0%と最も多く、次いで「競争激化」24.8%、「設備店舗の狭小老朽化」、「人材育成」17.2%の順

となっている。

業種別では、飲食業は「原材料高及び不足」、その他の業種は「売上・受注の停滞減少」が第1位となっている。その他で目立った項目として、製造業で「人材育成」（前回10.6%）建設業で「原材料高及び不足」（前回8.1%）の割合が前回の倍以上の数字となり、第2位と順位を上げた事が挙げられる。

○鳥羽商工会議所地域

現 状

全体では「良い」・「やや良い」があわせて31.7%、「やや悪い」・「悪い」があわせて40.6%、DI値△8.9（前期△28.3、前々期△38.5）と前期よりも改善している。業種別では、ホテル・旅館業がDI値54.6（前期10.0）と大きく改善している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い」・「やや良い」との回答は11.9%、「やや悪い」・「悪い」の回答については46.6%。DI値は△34.7（前期△1.4）で、前期より33.3ポイント悪化する見通しとなった。業種別でも製造業を除くすべての業種で悪化する見通し。

目立った変化等

最近の売上状況ではDI値△15.9（前期△26.5）と10.6ポイント改善しているが、見通しについてはDI値△29.7（前期△18.9）と悪化する見通し。経営上困っている問題では、「売上・受注の停滞減少」「設備店舗の狭小老朽化」「現在料高及び不足」が問題点の上位となっている。

○上野商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が21.5%（前回16.4%）、「やや悪い・悪い」が36.9%（前回45.2%）、DI値が△15.4（前回△28.8）で、前回に比べ13.4ポイントの改善を示す結果となった。

業種別に前回値と対比すると、飲食業とサービス業を除く全ての業種において改善し、中でも建設業は前回DI値の△20.0から今回DI値の26.0とプラスへ転じた。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が16.7%（前回13.7%）、「やや悪い・悪い」が36.9%（前回39.7%）で、DI値は△20.2（前回△26.0）となり5.8ポイントの改善の見通しとなった。

業種別では、小売業と飲食業以外の全ての業種で悪化の見通しとなった。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては、前回と同様、「売上・受注の停滞減少」が44.0%と最

も多く、2位については前回3位の「原材料高及び不足」が36.9%となった。3位については前回2位の「競争激化」が25.0%という結果になっている。

○名張商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が21.1%、「やや悪い・悪い」が37.3%で、DI値は△16.2（前回△28.0）となり、前回より11.8ポイント改善した。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が19.7%、「やや悪い・悪い」が36.6%で、DI値は△16.9（前回△26.6）となり、前回より9.7ポイント改善の見通しとなった。

目立った変化等

現状DI値、見通しDI値などすべてのDI値が前回より大きく改善したが、仕入条件のDI値が前回△22.3ポイントから今回△23.9ポイントで1.6ポイントの悪化、借入の現状が前回DI値4.7ポイントから4.4ポイントと0.3ポイントと若干の悪化となった。

経営上困っている問題として「売上・受注の停滞減少」が41.5%（前回49.6%）で最も多く、次いで「競争激化」が31.0%（前回26.6%）で2位、人材育成が3位で17.6%、人手不足が16.2%で8位から4位に急浮上、前回3位の「製品・商品単価の下落」が前回7位の原材料高及び不足と共に14.8%で5位になった。

○尾鷲商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が16.4%、「変わらない」が33.6%、「やや悪い・悪い」が50.0%、DI値は△33.6（前回△33.0）と前回より0.6ポイント悪化している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が6.0%、「変わらない」が39.6%、「やや悪い・悪い」との回答は54.5%、DI値は△48.5（前回△40.6）となり、前回のDI値と比べて7.9ポイント悪化している。

目立った変化等

経営上困っている問題点については、「売上・受注の停滞減少」との答えが前回よりも7.9%悪化し、56.0%と相変わらず最も多かった。次いで「競争激化」27.6%、「原材料高及び不足」16.4%の順であった。

業種別で見ても、「売上・受注の停滞減少」が最も多くなっている。その他目立った項目として、製造業・建設業などで「人手不足」の問題が浮上してきている。

○熊野商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が13.0%（前回16.7%）、「悪い・やや悪い」が53.7%（前回62.1%）と25年度上期にくらべ「良い・やや良い」が悪化傾向、「悪い・やや悪い」が改善傾向にある。DI値は△40.7（前回△45.4）となり、若干改善傾向にある。

見 通 し

「良い・やや良い」が9.3%（前回9.1%「良い」の回答が0%）と現状同様改復傾向となっており、「悪い・やや悪い」が50.0%（前回50.0%）と変化はなかった。

DI値も△40.7（前回△40.9）とほとんど変化は見られなかった。

目立った変化等

今回の調査では、現状の「良い・やや良い」が減少したものの「悪い・やや悪い」の回答が改善したため、全体的にみるとあまり変化はみられない。見通しでは「良い」回答が復活した（5.6%）ものの、「悪い・やや悪い」が同じ、DI値もほぼ変動がなく、全体的にみると現状同様あまり変化はなかった。

景況調査票

平成26年1月

会議所	No.	コード

※各設問に対して該当するものに○をして下さい。

I. 企業の概要

1. 業種(主たるもの1つ)

^{10,11}

〈製造業〉	1.食料品	2.繊維品	3.機械製品	4.金属製品	5.木材木製品	6.化学製品	7.土石窯業	8.印刷・出版	9.その他
〈建設業〉	10.土木工事	11.建築工事	12.その他						
〈卸売業〉	13.食料品	14.繊維・身の回り品	15.その他						
〈小売業〉	16.繊維・身の回り品	17.食料品	18.家具・日用品	19.電気製品	20.その他				
〈飲食業〉	21.飲食店								
〈サービス業〉	22.美容・理容	23.ホテル・旅館	24.自動車整備	25.不動産	26.その他				
〈交通運輸業〉	27.交通運輸	〈その他〉	28.その他()						

2. 常時使用従業員数(会社の役員・家族従業員・パートを除く)

¹²

1. 0 ~ 5 人	2. 6 ~ 20 人	3. 21 ~ 50 人	4. 51 ~ 100 人	5. 101 人以上
------------	-------------	--------------	---------------	------------

II. 企業の経営状況について

3. 現状について…平成25年7~12月の業況は前年同期に比べてどうでしたか。

¹³

1. 良	い	2. やや	良い	3. 変わらない	4. やや	悪い	5. 悪	い
------	---	-------	----	----------	-------	----	------	---

4. 今後の見通しについて…平成26年1~6月の業況は前年同期に比べてどうなると思いますか。

¹⁴

1. 良	い	2. やや	良い	3. 変わらない	4. やや	悪い	5. 悪	い	6. わからない
------	---	-------	----	----------	-------	----	------	---	----------

5. 売上状況について…平成25年7~12月の売上は前年同期に比べてどうでしたか。

¹⁵

1. 増	加	2. やや	増加	3. 変わらない	4. やや	減少	5. 減	少
------	---	-------	----	----------	-------	----	------	---

6. 売上の見通しについて…平成26年1~6月の売上は前年同期に比べてどうなると思いますか。

¹⁶

1. 増	加	2. やや	増加	3. 変わらない	4. やや	減少	5. 減	少	6. わからない
------	---	-------	----	----------	-------	----	------	---	----------

7. 利益状況について…平成25年7~12月の利益は前年同期に比べてどうでしたか。

¹⁷

1. 増	加	2. やや	増加	3. 変わらない	4. やや	減少	5. 減	少
------	---	-------	----	----------	-------	----	------	---

8. 販売状況(単価・決済方法)について…平成25年7~12月は前年同期に比べてどうでしたか。

¹⁸

1. 好	転	2. やや	好転	3. 変わらない	4. やや	悪化	5. 悪	化
------	---	-------	----	----------	-------	----	------	---

9. 仕入条件(単価・決済方法)について…平成25年7～12月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好 転	2. やや好転	3. 変わらない	4. やや悪化	5. 悪 化	6. 仕入なし
--------	---------	----------	---------	--------	---------

10. 設備投資について

20 25年7～12月の実績		➔	21 26年1～6月の予定	
1. 行 っ た	2. 行わない		1. 予定あり	2. 予定なし

11. 資金繰りの現状について…平成25年7～12月は前年同期に比べてどうでしたか。

22 1. 好 転	2. やや好転	3. 変わらない	4. やや悪化	5. 悪 化
-----------	---------	----------	---------	--------

12. 資金繰りの見通しについて…平成26年1～6月は前年同期に比べてどうなるとお考えですか。

23 1. 好 転	2. やや好転	3. 変わらない	4. やや悪化	5. 悪 化	6. わからない
-----------	---------	----------	---------	--------	----------

13. 借入の現状について…平成25年7～12月はどうでしたか。(借入された方のみ)

25 1. 容 易	2. 普 通	3. 困 難
-----------	--------	--------

14. 借入予定はありますか…(平成26年1～6月)

25 1. 予定している	2. 予定していない
--------------	------------

14-1. 借入先は、どこを希望されますか。(主たるもの一つ)

26 1. 民間金融機関	2. 公的金融機関	3. そ の 他
--------------	-----------	----------

14-2. 資金用途は何を予定されていますか。(主たるもの一つ)

27 1. 運 転 資 金	2. 設 備 資 金
---------------	------------

15. 現在経営上で、困っている問題点は何ですか。あれば3つ以内で選んでください。

28～33 1. 売上・受注の停滞減少	6. 設備・店舗の狭小老朽化	11. 競争激化
2. 製品・商品単価の下落	7. 売掛・債権回収の悪化	12. 人材育成
3. 人手不足	8. 人件費の増加	13. 立地条件の悪化
4. 過剰人員	9. 人件費以外の経費の増加	14. 法的規制等(緩和を含む)
5. 借入難	10. 原材料高及び不足	15. 税務・経理問題

16. その他困っている問題・ご意見等があればご記入下さい。

()

ご協力ありがとうございました。